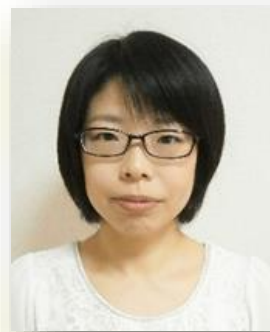


人を繋ぎコミュニティを創る 『協働コーディネーター』



CNCP サポーター（アイセイ株式会社） 岡野 登美子

4月13日、特定非営利活動法人 NPO 研修・情報センター代表理事の世古一穂さんに協働コーディネーターについて、お話を伺いました。マンションの集会室を公共化した新しい事例として、国分寺にあるカフェ「びより」をご紹介いただきました。通常マンションの住人だけに閉じられている集会室を開放し、一階部分にコミュニティレストランとして設置されたものが「びより」です。

100戸以上のマンションには集会室を設置することが法律で義務付けられています。しかし多くのマンションの集会室は理事会等以外には使用されていません。世古さんは「使用しないときはコミュニティレストランとして使用してはどうか？」と不動産会社に話を持ち掛けたそうです。「びより」の場合、マンションの設計・建設前から地域の方や不動産会社と話し合い、集会室をどのように使用していくか、地域に必要なコミュニティとなる場所を考えるためのワークショップが行われたそうです。それにより地域交流、地域雇用、地域経済とバランスの良いカフェとなりました。入居予定の住民には、より付加価値のあるマンションとして説明されました。

マンションの隣にある公園には全 99 条からなる「国分寺市まちづくり条例」が効果を発揮しています。大型マンションを建てるにはまちづくり条例等で公園など緑地を設置する必要がある場合があります。「国分寺市のまちづくり条例」を制定する際も、市民・行政・民間企業の人々との協働でそうした項目がもりこまれました。（第 73 条 緑と水のまちづくりへの協力）



他の地域でもこうした条例があればマンションの集会室を公共化する可能性があるとおっしゃっています。

カフェ「びより」は、隣接する公園の明るい光が差し込む中で食事ができるカフェとなっています。入口近くのレジの横にグッズ・フードの委託販売スペース、店内中央には小さな展示スペースもあり、お洒落な雑貨屋さんのような様子でした。またお店の机や椅子は移動できるので、ベビーカーや車いすの方も来店され、楽しいひとときを過ごされていました。

この日のランチは小平市で食堂を営んでいる方が調理していました。料理を作る店主は日替わりですので、毎日違う味が楽しめます。ランチのポテトコロッケが手作りらしい優しい味付けでとても美味しかったです。

店内奥では「ママとベビーのヨガ教室」が行われていた後で、カフェの一部にマットが敷かれ、そのまま食事をするお母さんたちのためにローテーブルを用意していました。マットの上なので、赤ちゃんはころんと寝転がり遊ぶことができます。その横でお母さんは安心して食事をとることができるのです。こうしたワークショップやフラワーアレンジメントなどのイベントも盛んに行われており地域の人々の交流の場となっています。



「びより」には赤ちゃんから老人まで多世代の人々が訪れます。人と人を繋ぎ、コミュニティを創造していくことが協働コーディネーターの役割なのだと、思いました。

。